



### ⑧ますます進むIT事業

公共施設イントラネットは、市役所本庁舎や総合福祉センターをはじめ、市内すべての公民館、分校を含めた全小中学校をアテネと接続しました。これにより、行政サービスの地域の均一化、高速化で市全体の保健・福祉・文化の向上が図られるようになりました。

議会ライブ中継



さらに、これらの整備に伴い、昨年の6月議会より各公民館で議会のライブ中継を見ることができるようになり、行政がより身近に感じられるようになりました。

また、白川地区に白石高等技術専門学校が開校し、IT社会を支える人材の育成と、地域に開かれた職業能力開発の拠点として期待されています。

### ⑨白石型福祉、着々と前進

センター設置に向けて行われた「保育サービス講習会」

安心して子育てができるよう、市民による育児相互支援組織として、「しろいしファミリー・サポート・センター」をあ



し、12月4日から会員の募集を始めました。今年2月からは援助活動が開始されます。

また、介護保険対象外となる在宅の高齢者に対しては、白石市独自の高齢者福祉施策として、「温泉デイサービス」などを行っていましたが、昨年はこれら従来のサービスに加えて、「高齢者住宅改良支援助成金交付事業」を実施し、福祉の向上を図りました。

### ⑩スパッシュランドパーク全面開園

平成3年度から整備を進め、部分開園してきた「スパッシュランドパーク」が3月末ですべての公園整備が完了しました。



四季折々の花や緑に囲まれた4.62%の園内には、小学生の要望を取り入れた冒険遊具などを配置し、また公園の維持管理の一部を地域住民が行うなど、パートナーシップによる親しみやすい公園となりました。

125,000株のシバザクラが咲き乱れる4月下旬から5月上旬には、多くの観光客が訪れ、昨年は約55,000人が花のじゅうたんに魅了されました。今年は、秋の花「サルズベリ」の植栽が予定されています。

### ⑤景気回復に向けて

白石市緊急雇用経済対策協議会



残念なことに、10月に市内大手の製麺企業が倒産し、関連会社を含め約170人が職を失いました。従業員の就労先の確保のため、市では直ちに、市や地元の商工関係者などによる「白石市緊急雇用経済対策協議会」を設置。さらに雇用の確保と地場産品を守るため、関係機関に積極的な働きかけをするなど、行政としてできる最大限の努力をしてきました。

また、景気の悪化などにより、今春高校卒業予定者の就職など雇用情勢が厳しいことから、9月下旬、白石公共職業安定所所長と市内の企業を訪問。積極的な求人等を要請し、雇用拡大に理解を求めました。

### ⑥市職員を公金着服で告発

市役所始まって以来の不祥事が起こりました。市会計課職員の財務会計システムデータの改ざんによるもので、懲戒免職すると



ともに、2月6日、電子計算機使用詐欺事件として告発しました。市民の皆さんには多大なご迷惑をお掛けしました。改めておわび申し上げます。再発防止に努めることはもちろん、職員の教育を徹底し、職員一丸となって信頼回復に全力を挙げてまいります。

### ⑦新ホワイトプランがスタート

平成13年度から22年度までの10年間にわたる、まちづくりの基本方針を示した「第4次白石市総合計画（新ホワイトプラン）」がスタートしました。

新ホワイトプランは、市民意識調査やまちづくり会議などで、市民各層からいただいた提言や意見を十分に反映し策定されました。

新ホワイトプラン元年となった昨年は、「市民と行政のパートナーシップ」により、「健康・福祉都市」

「環境都市」「生涯学習都市」「IT先端都市」の実現を目指しながら、くらし日本一のまちづくりを進めてきました。



### ②NPOのトラスト運動を支援

- 市民とのパートナーシップで森の緑を復元 -

トラスト地での植樹指導



南蔵王の自然林の復元に取り組むNPO法人「蔵王のブナと水を守る会」のナショナルトラスト運動を支援するため、市では会がトラスト地を取得する費用の一部を負担し、トラスト用地を同会と共同で所有することを決めました。自治体と市民がトラスト地を共有するのは全国でも珍しいことです。

共有で取得するのは不忘山中腹にある約13%の荒れ地で、市はこの土地を、来年度から本格的に導入される総合学習での市内児童の植林実習に役立てるほか、「不伐の森」地域に指定し、永続的に自然林を保護していきます。

共有で取得するのは不忘山中腹にある約13%の荒れ地で、市はこの土地を、来年度から本格的に導入される総合学習での市内児童の植林実習に役立てるほか、「不伐の森」地域に指定し、永続的に自然林を保護していきます。

### ③大成功に終わった「みやぎ国体」

白石市では10月14日と15日に山岳競技が、15日と16日に新体操競技が開催され、全力を尽くして競技した選手たちは、私たちに大いなる感動を与えてくれました。

開始式、競技の運営、表彰式、また記念品の作成、会場内外での美化活動など、開催の準備、そして開催期間中に、多くの市民の方にご協力のご声援をいただき、両競技とも大成功に終わることができました。

また、10月20日に埼玉県幸手市で開かれた「第19回全日本ジュニア新体操選手権大会」の男子団体競技で東中学校が優勝、全国の頂点に立ちました。



「新体操・山岳競技」感動の3日間

### ④真田サミット開催

- 歴史を生かしたまちづくりの推進 -

真田家と縁がある全国の自治体の関係者が一堂に集う「新世紀・真田サミット」が11月11日、ホワイトキューブで開かれました。

サミットには、長野県真田町や上田市、大阪市など全国から13自治体が参加。講演会やシンポジウムなどを通し、広域的な連携のもとに、地域の活性化につなげていくことを確認しました。

白石市は、これまで白石城復元や碧水園整備など個性あるまちづくりを推進してきました。今後も全国に誇れる歴史を生かしたまちづくりに取り組んでいきます。



### ①「水道水源保護条例」を制定

- おいしくて安全な水を守るために -



現在ばかりではなく将来にわたって、市民にはきれいな水を楽しむ権利があり、市にはその権利を守る責任があります。

その方策のひとつとして、3月に県内初の「水道水源保護条例」を制定しました。「住民の持っているきれいな水を楽しむ権利を守る」ことを明文化したのは、全国で初めてのことで

この条例では、水源保護地域に指定された区域でのゴルフ場、一般・産業廃棄物処分場の立地規制を定めています。指定された保護区域は、上水道と簡易水道の水源7カ所が含まれる市の西側の部分で、市面積の56%に当たる約160km<sup>2</sup>です。

また、小原上戸沢地区に計画されている産廃処分場の設置許可申請については、県は10月22日に不許可と決定しましたが、今後とも計画が完全に白紙撤回されるまで、市民の皆さんと粘り強い運動を継続展開していきます。